

1. 単元名 わたしたちの生活と食料生産

2. 単元目標

生きて働く知識・技能

- 食料生産に関する人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解する。
- 地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめる。

未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力

- 生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現する。

学びに向かう力・人間性

- 食料生産について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養う。
- 多角的な思考や理解を通して、日本の農業の発展を願い、日本の将来を担う国民としての自覚を養う。

3. 単元について

(1)教材観

本単元は、学習指導要領解説5年内容(2)「我が国の農業や水産業における食料生産について、学習の問題を追及・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。」にあたる。ここでは、我が国の食料生産の概要に関する内容と食料生産に関する人々の工夫や努力に関する内容から構成されている。

本単元では、山形市飯塚町で農業を営んでいる佐藤琢磨さんの営みを基に学習を進めていく。飯塚町はきゅうり栽培が盛んで、飯塚町にはきゅうりの選果場まである。その飯塚町で、琢磨さんはきゅうり、トマト、ブロッコリーなどの野菜、そして米を育てている。

きゅうり栽培がとても盛んな地区にも関わらず、なぜ琢磨さんがきゅうりだけでなく、他の野菜や米を育てているのかということ、そこには理由がある。それは、経営のリスクマネジメントである。もし、きゅうりだけに絞って栽培を行った時に、きゅうりが不作の年になってしまえば、1年間の収入が激減してしまう。時期をずらし、様々な食物を年間通して栽培することで、収入の安定化を図るといふ、生産者の工夫なのである。

また、20代の琢磨さんは、同世代の仲間を募り、農業関係のイベントを企画したり、「セイサイボーイズ」というグループを作り山形の伝統野菜「山形青菜」の情報発信をしたりなど、様々な取り組みを行っている。なぜ、このような取り組みをしているのかということ、飯塚町では生産者の高齢化が問題となっていて、その状況を変えるためである。様々な人に農業のことを知ってもらうために、様々な取り組みを行っているのである。

このような琢磨さんの営みを基に学習を進めていくことで、子どもは自分の身近に農業を感じる

だけでなく、生産者の工夫や努力、そして今後の農業の課題について、自分事として捉えることができる。と考える。

(2)児童観

33 人在籍の本学級の中には、父母が農業を行っている子は一人もいなかった。しかし、祖父母が農業をしている子は 5 人いて、その子達は何度か祖父母の農業を手伝ったことがあると話していた。また、自分の家族や知り合いの中で、農業に携わっている人はいるかを尋ねると、クラスの半数はいると答えていた。しかし、その全てが高齢者で、子どもの親世代では農業をしている人はいないということがわかった。また、子どもに将来、農家になりたい人はいるかを聞くと、本学級では誰もいなかった。

このように、子どもの周りに農業に携わっている人はいるが、子どもにとって農業は他人事で、自分達の生活とどのようにつながっているのかを意識している子どもはいなかった。もちろん、生産者の高齢化についての危機感を感じていることもなかった。

(3)指導観

まず、「みつめる」段階で、米作りの写真から、米がどのように作られているかを予想させる。その時に、「水田の水はどこから来ているか。」「米作りはいつから始まり、いつ収穫できるのか？」などの米作りに関することだけを予想させるのではなく、「どんな人が、どれぐらいの人数で働いているのか。」といった「米作りをしている人」にも予想させていく。そのことを通して、子どもは、米の生産だけでなく、生産者に対する関心を高めていくこととなる。

「しらべる」段階では、子どもに琢磨さんを米農家として紹介する。そして、米の生産工程について、教科書の資料を使って自分達で調べ、調べたことを琢磨さんに発表し評価をもらう。そして、自分で調べたことと琢磨さんから教えてもらったことを参考に、米の生産工程について米カレンダーにまとめていく。子どもが調べたことを琢磨さんに発表し評価をもらうことによって、子どもにとって米の生産工程を調べる活動が自分事となり、琢磨さんの生産工程の工夫をより感じるようになる。

次に、琢磨さんが実は、米だけでなく米以外にもたくさんの野菜を生産していることを紹介する。そして、なぜ琢磨さんが米以外にもたくさんの野菜を生産しているかを子どもに予想させる。子どもの予想を琢磨さんに発表し、琢磨さんからその理由を教えもらい、「琢磨さんの農業経営の工夫」「飯塚町がきゅうりの生産が盛んなこと」を知るだけでなく、米作りだけでも 1 年をかけた大変な仕事なのにさらに様々な野菜を生産しているという事実が、琢磨さんの生産者としての努力を子どもに感じさせることとなる。

野菜の生産については、きゅうりを中心に取り扱う。きゅうりは種からでも苗からでも育てることができる。当然、苗は苗を育てる業者から購入するので、種から育てた方が費用は少ない。しかし、琢磨さんは苗から育てている。なぜなら、琢磨さんは一人でビニールハウス 2 つ分のきゅうりを育てているため、種から育てるには人手が足りないからである。一方、琢磨さんの知り合いの他のきゅうり農家ではきゅうりを種から育てている。その農家は 5 人で経営しているので、種から育てることが可能なのである。このように、きゅうりの生産工程の学習では、琢磨さんと他の農家の生産方法を比べ、生産性を高める工夫の違いがあることに気付かせていく。

また、きゅうりのビニールハウス設営の写真を見せ、農家同士が協力してビニールハウスを設営

していることに気付かせていく。しかし、その写真には琢磨さん以外に若い生産者が写っていないことにも子どもは気付くことだろう。ここで、子どもは、生産者の減少や高齢化などの日本の農業の課題にも触れることとなる。

「ふかめる」段階では、琢磨さんの新しい取り組み、山形の伝統野菜「山形青菜」を生産する「セイサイボーイズ」を紹介し、その取り組みを始めた理由を子どもに予想させる。子どもの予想を琢磨さんに発表し、琢磨さんからその理由を教えてもらうことで、子どもは琢磨さんの地域に対する愛情や農業に対しての熱意を感じるようになる。

そして、「あなたなら農家になるか？」という問いを設定し、子どもに話し合わせる。この活動によって、これまで子どもが学んできた、琢磨さんの食料生産に対する工夫や努力と、農業の仕事の大変さや収入の安定の難しさの間で、子どもは揺さぶられ一人一人がさらに自分事として食料生産についての学びを深めることとなる。

最後に「ひろげる」段階では、「琢磨さんのような農家の人達のために、今私たちができることは？」というテーマで、食料生産と自分達の生活をつなげていく。これまで学んできた生産者の想いに対して、消費者としてどんな行動ができるかという問いである。このことを通して、ESDの視点「連携性…ヒトとヒトのつながり」「責任性…やりとげている」を働かせ、子どもは自分に今できることを真剣に考えることとなる。そして、子ども達が話し合っただけで考えたことを、琢磨さんに発表し評価をもらうことで、日本の食料生産の輪の中に自分も入り貢献することができるのだという、日本人の一員としての役割の自覚をすることができると思う。

- 本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）
 - ・ 相互性 全てのモノはつながっている
 - ・ 連携性 ヒトとヒトのつながり 仲間はずれをつくらない
 - ・ 責任性 やりとげている
- 本学習で育てたい ESD の資質・能力
クリティカル・シンキング システムズ・シンキング
- 本学習で変容を促す ESD の価値観
世代内の公正 自然環境・生態系の保全 幸福感
- 達成が期待される SDG s
2 持続可能な農業の促進 1 2 持続可能な生産・消費形態の確保

4. 単元の評価基準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
生産者の工夫や努力を知り、その工夫や努力が自分達の食料生産を支えていることを理解することができる。	生産の工程や人々の協力関係などに着目して、食料生産に関わる人々の働きを考え、表現することができる。	食料生産について、主体的に学習の問題を解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりする。

5. 単元の指導計画（全 17 時間 ）

次	主な学習活動（ ○ ）	学習への支援（・）
見 つ め る ③	○ 米作りの写真から、米がどのように作られているか予想する。 ○ 学習問題を作る。	・ 子どもの興味を「米作り」から「米作りをしている人」に変えるために、どんな人がどれぐらいの人数で働いているのかを予想させる。
	米はどこから来ているのか？	
し ら べ る ⑧	○ 米を作っている琢磨さんを紹介する。	
	琢磨さんは米をどうやって作っているのか？	
	○ 琢磨さんから米の生産工程を聞き、米カレンダーにまとめる。 ○ なぜ米以外にも野菜を作っているのかを考える。	・ 米作りが1年間を通した仕事であること、JAや農家同士で協力して米作りをしていることを気付かせる。
琢磨さんは野菜をどうやって作っているのか？		
ふ か め る ④	○ なぜ琢磨さんはきゅうりを種からではなく苗から育てているのかを考える。	・ 琢磨さんの生産方法と他の農家の生産方法を比べて、生産性を高める工夫に違いがあることに気付かせる。 ・ 琢磨さんが作ったきゅうりを食べて、琢磨さんの品質を高める努力に気付かせる。 ・ ブランド化、6次産業化して、販売方法を工夫していることに気付かせる。
	あなたなら農家になるか？	
	○ 自分だったら農家になるかどうか話し合う。	・ 琢磨さんの工夫や努力の価値と、農業の課題を対比させる。
ひ ろ げ る ②	琢磨さんのような農家の人達のために、今私たちができることは？	
	○ 話し合っただけのことを、琢磨さんに発表して評価をもらう。	・ 子ども一人一人の考えを取り上げ、教室で意見交換をする。

米はどこから来ているのか？

見
つ
め
る
③

水田の水はどこか
ら来ているのか？

いつから始まり、いつ
収穫できるのか？

どんな人が、どれぐらいの
人数で働いているのか？

どのようにお店に
運ばれるのか？

困ることは
ないのか？

水道から水を引いて
いるのかな？

田んぼは広いから、10人
ぐらいで働いている？

どうやって保存
しているんだろ

病気で枯れてしまう
こともあるのかな？

琢磨さんは米や野菜をどうやって作っているのか？

し
ら
べ
る
⑧

米の生産工程
・ 米カレンダー

きゅうりの生産工程
・ 種から？苗から？

農家同士の協力
・ ビニールハウス設置

販売の工夫
・ ブランド化, 6次産業化

米を作るために、琢磨
さんは稲の仕事以外
にも土や水の管理も
しているんだ。

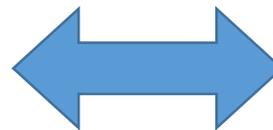
種を買うより苗を買う方がお金は
かかるけど、琢磨さんは自分一人で
農家をしているから手間を省くため
に苗を買う方を選んでいるんだね。

他の農家との違いを出すた
めに、直売所で琢磨さん本人
が直接売っているんだ。

あなたなら、農家になるか？

ふ
か
め
る
④

琢磨さん
・ 品質を高める努力
・ 地域に対する愛情
・ 食料生産の想いへの共感



農家
・ 仕事の大変さ
・ 不安定な収益
・ 人手不足

あんなにおいしいきゅうりを食
べたのは初めて！おいしく作る
ために様々な努力をしている琢
磨さんの生き方に憧れるな。

地元の農業を盛り上げるた
めに、新しいチャレンジをし
ている琢磨さんはかっこい
い！自分もやってみたい。

1年中朝早くから仕事をす
るのは、体力がもたないな。

天気などに左右される収入
は、かなり不安定だよな。

琢磨さんのような農家の人達のために、今わたしたちができることは？

ひろ
げ
る
②

なるべく地元の米や野
菜を買っていきたい。

農家の人の工夫や努力
を周りの人に伝えたい。

作ってくれた食材を大
切に食べていきたい。